



里地里山保全・再生の特徴的取組 個票 A（対象地域の概況）

NO.108			芋谷川流域の棚田		生物地理区分		アカマツ林	
					地域区分		都市周辺	
所在地	都道府県	和歌山県	地形条件	1.山地	2.山麓部	3.丘陵・台地		
				4.低地	5.その他			
	市 町 村	橋本市	環境要素	1.二次林	2.草地	3.水田		
				4.畑	5.小川・水路	6.ため池		
	集落名称等	芋谷		7.池沼・湿地	8.社寺林	9.人工林		
10.その他（栗園、柿園）								

環境要素（対象とする地域に含まれる環境要素）

：面積割合が最大のもの      ：それ以外の環境要素

自然環境・景観保全、国土保全関連の法指定状況	自然環境、景観、文化等の観点からの選定・評価
特徴的な動植物や生息環境	対象地の景観の現状
	<p>写真集などの出版物がある</p> <p>観光パンフレット等に写真が使用されている</p> <p>風景探勝や撮影の来訪者が多い</p> <p>伊都景観 100 選に選定</p>

	
<p>撮影時期：2007 年 6 月</p> <p>写真の説明：集落に近い方の棚田</p>	<p>撮影時期：2008 年 6 月</p> <p>写真の説明：左手奥の谷沿いに棚田が続く</p>

NO.108		芋谷川流域の棚田		取組主体	1.地域コミュニティ(集落・組合等)
所在地	都道府県	和歌山県			2.団体・企業・学校等
	市町村	橋本市			3.行政による支援施策の活用
	集落名称等	芋谷			4.多様な主体が参加・連携する組織体
					5.その他

取組 主体	主な主体の名称		はしもと里山保全アクションチーム	
	その他の主体の名称		和歌山県	
目的 ：主 ：その他	1.農林業を通じた里山や草地の利用（管理）の維持・活性化（伝統的なものも含む）			
	対象・取組内容		耕作放棄地（山間の棚田）に藪状に繁茂した草木、竹を切り拓き、水田を復活。又は畑地として整地（ソバ栽培）。畔や畦道の維持、管理や棚田の石組みの修復などを行い、里地の復活を目指して活動している。	
	支援措置			
	3.環境教育や自然体験、エコツーリズムの場としての利用			
	自然観察会		*	活動日の午後に里地里山散策会
	環境教育・学習活動		*	小中学生の食と農の年間プログラム
	里地里山体験・環境保全		*	市民参加による保全活動と作物づくり
	農林業体験活動		*	年間を通じた米づくり・畑づくり
	エコツアー		*	県（観光課）と協力して里山体験（作業）プログラム
	その他		*	地元公民館と協力し、子どもの居場所づくり
	5.地域の良好な景観の保全・修復			
	取組内容		河岸段丘に開けた大小の棚田 150 枚のうち水田として維持されているのは 20 枚。残りの遊休地、耕作放棄地を順に再生する活動を開始。2008 年末 25 枚の開墾、水田化。	
	6.里地里山の伝統的な生活文化の知恵や技術の継承			
	対 象	生活行事	*	活動日の昼食に地元の伝統食
資源利用技術		*	あけび蔓を利用したカゴ作りやリース作り	
その他				
取組内容		古代米（4 種）を伝統の木杵を用いた方法で田植え、秋にはハザ架けにより乾燥、足踏み式脱穀機で脱穀作業		
連携・協働による取組 内容・役割分担等			15 年活動している「アクションチーム」が参加を呼びかけ、年間のべ 70 名の市民参加を実現。和歌山県「耕作放棄地再生活動モデル事業」として認定され事業委託。地元公民館との協働事業も年 5 回開催し、公報などの支援を受けている。顧問は九州大学大学院教授である重松氏。	
取組の特徴や強調したい点			<p>・新興住宅地の住民が積極的に参加し、地元との親睦が生じている。県職員数名が毎回家族連れで作業に参加し、多くの情報交換ができる。地元所有者も参加し古い時代の話し方や歴史が分かる。</p> <p>・里地里山の公益的機能や食糧生産基地としての重要性に鑑れば農村再生は単に農業者の責任に帰すのみではなく、一般の市民も「応分の責任」を負担しているとの認識で活動中。同時に里地里山は心の癒しの空間であり「日本の原風景」は精神的拠り所として将来に受け継ぐべきと考えている。市民への PR を通して多くの人が「遊び」に来ることのできる場所として里地里山の新しいあり方を発掘したい。</p>	

取組の概要	活動チームが棚田の耕作放棄地を再生、新旧住民交流の場ともなる	課題グループ   学習体験 仕組
事例の特性	活動団体の自律的活動を通じたコーディネート(大都市近郊)	
取組の中で他の地域の参考となる点	国際ボランティア交流受け入れをきっかけに設立された里山保全の活動チームが広く市民参加を呼びかけて、棚田の耕作放棄地を再生する取組を継続。農作業に加え石組修復なども行い、新旧住民の交流の場ともなっている。	